

3年	算数	「重さをはかって表そう (重さのたんいとはかり方)」 9時間	概要 1人1つの自作天秤の用意、片面に収まるワークシート、ランキングする道具、タイマー表示、任意単位を集めた学習環境、学習集団、問題場面、教室	適 ○
手立て	<ul style="list-style-type: none"> 一人一つの自作てんびんを持つことで、人任せではなく、自分事として学習に取り組めるようにする。 お互いの考え方が一目で分かりやすいように、見開き一枚のワークシートにまとめ、友達と比べやすくしたり、黒板に掲示したりする。 手で持っただけでは重さの違いが分からず、予想しづらい5種類（のり、はさみ、セロテープ、ホッチキス、電池）をランキングする。一つは共通の電池にすることで、単位を揃える必要性につなげていく。 任意単位になりそうなものを事前にアンケートで確認し、同じ形・同じ重さの物や、形や重さが様々な物を用意し、任意単位の条件を考えながら選べるようにする。待ち時間がないように、各クラスにある程度の数を確保しておく。 学習集団（一～三人、四人以上）を工夫させる。（中学年で作成した掲示を利用する） 		児童の様子	<ul style="list-style-type: none"> まずは自力で予想をたてることができていた。 掲示で友達の学習活動を見たり、教師の全体への声掛けを聞いたりすることで、途中経過を互いに確認しながら自分の考えを深めたり、間違いに気付いたりしていた。 様々な種類の任意単位の候補が用意されていたことと、ストップウォッチの拡大表示で時間を意識したことで、任意単位としてより良いものを選ぼうと試行錯誤する姿が見られた。 学習集団のそれぞれの良さを確認してから学習活動に入ることで、自分に合った学習の仕方を選択したり、目的に応じて変更させたりする姿が見られた。 早く終わった友達のワークシートを黒板に掲示することで、なぜ早く終わったのか、正確なのか等、自分の結果と見比べる姿が見られた。
成果	<ul style="list-style-type: none"> やるべきことを明確にしたこと、時間を意識させたこと、友達と学習活動の情報共有を適宜行ったことで、児童一人一人が自分の学習を適宜調整しながら意欲的に問題解決に取り組んでいた。 		課題	<ul style="list-style-type: none"> 4クラスで同時に授業を行うため、任意単位になりそうなものをたくさん集めることが大変である。 時間が限られているため、終わらなかった児童も1割程度見られたので、2コマ続きの単元計画が理想である。

